

平成 29 年 4 月 7 日

鹿大「進取の精神」支援基金学生海外派遣事業（長期派遣留学）留学終了報告書

鹿児島大学長 殿

鹿大「進取の精神」支援基金学生海外派遣事業（長期派遣留学）実施要項に基づき、下記のとおり報告します。

記

1. 報告者情報

所属/学年	理工学研究科機械工学専攻 1 年	性別	男
卒業/修了 予定年月日	2018（平成 30）年 3 月 31 日		

2. 留学の概要

留学期間	開始年月日	2017 年 1 月 7 日	終了年月日	2017 年 3 月
留学のタイトル	グローバル企業で活躍できるエンジニアに向けて			
留学の目的と概要（実践活動部分には、下線を引いて下さい）（700 字程度）				
<p>海外研修では、グローバル企業で活躍できるエンジニアに向けて次の 3 つの事を実施しました。1 つ目に、<u>サンノゼ州立大学附属語学学校で語学研修</u>を行いました。講義は面接とエッセイ、TOEFL の試験をもとにクラス分けを行い、<u>writing、reading、oral、選択授業の 4 つの講義を受講</u>しました。それぞれ、<u>パラグラフの書き方やエッセイの書き方、速読の方法、プレゼンテーションスキル</u>などを学びました。2 つ目に<u>現地の企業でインターンシップ</u>を行いました。講義をすべて午前中に受講し、午後から週 5 日インターンシップを実施しました。インターンシップ先の企業は電子部品を販売する会社で、そこで私は企業調査や顧客データや売上の分析、取引先への企業訪問などを行いました。3 つ目は現地で活躍する方々との交流です。シリコンバレーでは日々、<u>シリコンバレーで働く方々が集まる交流会やフォーラムが開催</u>されています。私はそのようなイベントの積極的に参加し、現地で活躍するエンジニアや投資家、コンサルタント、起業家、大学教授、医者など積極的に交流しました。イベントだけの交流だけではなく、自分か興味がある企業や研究を行っている方に改めてコンタクトを図り、会社訪問や研究室訪問、食事会などを通して、密にコミュニケーションを行いました。その中でシリコンバレーのビジネスや海外で活躍するために必要な事、エンジニアとしての考え方などを学びました。また、滞在中は、大学のインターナショナルハウスで現地の学生 5 人とルームシェアをして過ごしました。インターナショナルハウスの仲間やクラスメートと一緒に生活することで、考え方の違いや文化の違いを感じたり、コミュニケーションを行うことで語学力の向上や異文化理解に努めました。</p>				

3. 受入れ機関情報及びスケジュール

(1) 受入れ機関情報

	1ヶ所目の機関	2ヶ所目の機関	3ヶ所目の機関
国・地域	アメリカ	アメリカ	
都市名	サンノゼ	サンノゼ	
機関名 (英語)	San Diego State University Language Institute	SUSUMU International Inc.	
機関名 (日本語)	サンノゼ州立大学 付属語学学校	ススムインターナショナル 株式会社	
受入れ 機関 URL	http://www.sjsu.edu/	http://www.susumu-usa.com/	

(2) 留学期間中のスケジュール 留学月数 (2.5) ヶ月 / 授業料申請 (○有・無)

年 月	留学先機関	国・地域	主な活動
2016年 1/9～3/10	サンノゼ州立大学 付属語学学校	アメリカ	語学研修
2016年 1/30～3/10	SUSUMU International Inc	アメリカ	企業インターンシップ

(3) 参加したプログラム (○有・無) (複数選択可)

本学の協定校交換留学	名称記入	本学の協定校交換 留学以外のプログラム	大学院理工学系 イノベーション海外研修
本学以外の機関に よる留学プログラム	名称記入		

4. 留学の成果及びその測定方法 (300字程度)

成果発表 (論文、作品等)		単位取得	○	外国語能力	○	その他	
単位取得：理工系国際コミュニケーション海外研修の単位を取得する。 測定方法は、海外研修を行う前後で TOEIC を受験し、点数を比較する。インターンシップ先の会社の研修で行った課題のレポートを提出する。英語によるプレゼンテーションと質疑応答を行う。これらの内容を総合的に判断します。							

※当てはまる項目に○を付し、具体的に説明して下さい (複数回答可)

5. 上記 4.も含め、留学の目的がどのように達成できたか、留学で得たことは何か記述してください。

(500 字程度)

大学での語学研修は、reading、writing、oral の講義を受け、語学力の向上につながりました。特に、oral の講義では、プレゼンテーションを行う機会が多々あり、人前で英語を話すことや相手にわかりやすく伝えることなどを学びました。またクラスメートやルームメイトや現地の学生と交流を通して、日常英会話の向上や、異文化理解につながりました。現地でのインターンシップは、将来グローバルなエンジニアとして働く上でとてもよい社会経験になりました。実際にアメリカの営業所でのボランティアを通して、日本とアメリカの企業の違い、接し方の違いも学ぶことができました。特に自分の意思や考えを相手に伝えることの重要性を強く感じました。また、社員の方とのミーティングを通して、社会人としての必要な考え方を学ぶこともできました。研修中に大手企業や中小企業、研究機関、大学など 1 万社以上の顧客に対しての企業調査や売上データの分析を行いました。これまで経験したことのない仕事を行い、エンジニアとは違う視点や仕事の役割学ぶことができ、これから企業に就職する上で貴重な経験をすることができました。またインターンシップの後は、現地で行われている交流イベントに多く参加し、現地で活躍するエンジニアや起業家、医者、大学教授などとの交流をし、海外で活躍するために必要な考え方や能力、また日本企業との違いについて学ぶことができました。

6. 留学後に行う鹿児島地域を活性化する活動について述べてください。(500 字程度)

私は鹿児島地域の活性化のために IoT (Internet of Things) の技術が生かされるのではないかと考えております。IoT とは、センサー、家電、車両等の様々なモノがインターネットにつながることを意味しており、現在急速に進展している分野です。シリコンバレーは IoT 関連の開発を行う最先端の企業が集まっております。留学中に、現地の企業やインターン先の企業、サンノゼやシリコンバレーベイエリアで IoT に関する情報収集を行い、最新のトレンドや実際にどのような技術、製品が研究開発され、IoT の技術がどのように使われているのか調査しました。鹿児島県の現状を把握して、それをもって留学に行き、情報収集を行い、留学中得られた現地での情報や自分の感じたことを鹿児島県の企業に向けて発表することは、鹿児島地域の活性化につなげたいと考えております。これから IoT の適用が期待される分野は、農業、医療、インフラ、交通、災害など幅広く、鹿児島県の企業だけでなく鹿児島県民の生活にも大きく影響を与える技術であります。鹿児島県の IoT 普及に向けて、留学中に収集した情報を、より多くの情報を鹿児島に還元しようと考えております。またその他にも、留学後には、多くの鹿児島大学の学生が留学を経験し、グローバルな考え方を学べるように自分の経験を伝え、学生が積極的に海外に留学するように促す活動をしようと考えております。

7. 留学を今後の自分の生き方にどのように活かすか、留学成果を活用して将来鹿児島地域に貢献できることは何か記述して下さい。(500 字程度)

これまでグローバルで活躍するエンジニアとして世の中に貢献したいと考えていましたが、そのためには具体的にどんな能力が必要で、自分に何が不足しているかなどは分かっていませんでした。しかし、今回の海外研修を経験し、現地企業で実際にインターンシップを行ったり、現地で活躍するエンジニアや起業家、投資家、医者、大学教授、弁護士様々な職種の方々と交流を通して、海外で活躍するために必要な考え方であって、能力、また日本企業との違いについて学ぶことができました。その結果、今の自分に足りないことや改善すべき点に気付くことができ、これからの生活や今後の進路を考えるうえ非常に参考になりました。また研修を通して、海外で働きたいという思いが強くなり、語学に対する取り組み方や大学での研究など、これからの大学生活の仕方や目標実現へのモチベーションに大きな影響を受けました。この経験をこれから留学する鹿児島県の学生に伝え、少しでも多くの学生が留学するように促したいです。また現地で収集した IoT などの最先端の技術の紹介や現地で交流した福岡と静岡の県職員の方が取り組んでいた地域貢献活動の紹介を通して、鹿児島県の地域貢献につながる情報や考えを伝えたいです。

平成 29 年 6 月 26 日

鹿大「進取の精神」支援基金学生海外派遣事業（長期派遣留学）
留学後地域活性化報告書

鹿児島大学長 殿

鹿大「進取の精神」支援基金学生海外派遣事業（長期派遣留学）実施要項に基づき、下記のとおり報告します。

記

1. 報告者情報

所属/学年	理工学研究科機械工学専攻 1年	性別	男
卒業/修了 予定年月日	2018（平成30）年 3月 31日		

5. 留学後の鹿児島地域を活性化する活動の概要を、留学の成果との関係がわかるように記述してください。（700字程度）

【活動のタイトル】 シリコンバレーの経済システムと日本企業の海外進出の課題

【活動の期間】 2017年 4月 1日 ～ 2017年 6月 12日

【活動の概要】 鹿児島工業倶楽部主催の例会で講演会を実施 懇親会で意見交換
講演テーマ 「シリコンバレーの経済システム」

私は鹿児島地域の活性化のため、留学を通して、アメリカ・シリコンバレーの経済システム、日本企業とシリコンバレーの企業の違い、注目のイノベーションの3つの点に注目をしました。留学中は、インターンシップ先の企業や取引先の企業だけでなく、現地で開催された多くのイベントや勉強会に参加し、情報収集を行いました。この留学経験を通して学んだこと、感じたことを鹿児島地域の活性化につなげるために、鹿児島工業倶楽部主催の例会で、鹿児島の企業の方々に向けて講演及び意見交換を行いました。講演では、留学を通して注目していたシリコンの経済システム、日本企業とシリコンバレーの違い、注目のイノベーションの3点について講演を行い、シリコンバレーがなぜ優れているのか、なぜイノベーションが起きるのか、鹿児島の企業及び日本の企業がシリコンバレーに進出する際の課題などについても話させていただきました。また講演会の後、講演に参加して頂いた方と意見交換を行い、学生目線で感じたことなどについても話をさせていただきました。鹿児島の企業がシリコンバレーや海外進出する際の参考や鹿児島の特産品を海外展開する際の参考になったと考えています。また現地で注目されている IoT (Internet of Things) の技術は、鹿児島の高齢者の医療管理システムや安否システム、農業の自動化など様々な分野への応用が期待できると考えています。

また、他の活動として、これから留学をしようと考えている学生に対して、私が留学を通して、経験したことや感じたことを話し、留学のアドバイスを送りました。これによって少しでも多くの学生が留学に積極的に参加して欲しいと考えています。

6. 鹿児島地域を活性化する活動の成果と今後の課題と展望について述べてください。(700字程度)

アメリカ・シリコンバレーに関して、留学を通して多くの情報収集し、多くの事を学びました。そこで学んでこと、感じたことを鹿児島の方々に向けて講演を行い、意見交換を行うことでシリコンバレーの情報や現状について伝えることができ、留学で学んだ経験を還元することができました。一方で、実際にシリコンバレーの経済のシステムやシリコンバレーの流行が鹿児島や日本どこかの地域でそのまま適用することで、鹿児島地域の活性化に直接結びつくというわけではないということも同時に感じています。実際シリコンバレー経済システムは、文化や人材、資金など様々な要因によって成り立っています。そのためそのままシリコンバレーの経済システムを鹿児島や日本の地域に適用するのではなく、日本に適した、日本流の経済システムを築き上げる必要があると考えています。そのためにも、より一層産学官が協力して鹿児島の地域活性化に向けて取り組んでいく必要があると考えています。また、鹿児島企業が海外進出する際や鹿児島の特産品を海外に転換する際には、語学面以外にも多くの課題があるのが現状です。しかし、留学を通して感じたのは、日本企業の海外進出をサポートする団体や海外向けのウェブサイトの作成サポートをする団体など日本企業の海外進出や地域の特産品などの海外展開など多くの支援団体があることもわかりました。人口が減少している鹿児島地域ではもっと積極的な海外進出や海外観光者向けのサービスを充実することで地域の活性化の繋げていく必要があると考えています。